

トモエときわ研修会開催 in 北海道

去る2月22日～23日、札幌ガーデンパレスホテルにおいて北海道でのトモエときわ製品拡販を目的とした第14回トモエときわ研修会が開催された。この研修会は2004年に第1回が開催されて以来、北海道トモエ肥料販売協同組合（以下北肥協）のメンバーが一同に会し、一年間のメンバー各社の販売・試験活動の発表・質疑応答の場となっている。またメンバー各社の若手が研修会準備委員となり企画、立案、運営、司会進行等が進められ、事務局はあくまでもサポート役に徹し手作り感満載の研修会だ。

今回はメンバー各社総勢51名が参加し、2日間に渡り盛んに議論が行われた。第14回の特徴は試験発表に重点を置いたこれまでのプログラムに加え、

各社営業担当者の営業体験発表や日本土壌協会会長松本先生の講演を組み込み、より実践に活用できる内容となった。

第一日目は、北海道トモエ肥料販売協同組合 武蔵理事長（武蔵商事代表取締役社長）他幹部の皆様にあ挨拶を頂き開幕。続いて試験成果発表が行われタマネギ、大豆、馬鈴薯、小麦について発表が行われた。タマネギでは「トモエ化成の費用対効果」「ときわ有機によるリン酸の肥効向上」、大豆では「連作による収量低下をときわ有機で軽減」、馬鈴薯や小麦では「トモエ化成による品質・収量の向上」等々の試験結果が発表され、いずれもトモエ・ときわ施用区のよさが発揮された内容であった。これらを基に今後の営業活動に活かして、拡販に繋げるとの共通認識を持てたことも大きいといえる。

また営業体験発表では、入社から数年の若手担当者が今までの営業活動を振り返り、気づいた事や行ってきた事の発表がなされた。今後の営業においては「商品力に負けない人間力を益々磨くこと」「売る気持ちをどう持つか、持たないと売れなくなる」といった意見が出された。第一日目終了後の懇親会場では、ベストプレゼン賞（試験成果発表）、ベストパフォーマンス賞（研修会参加者全員から投票）が発表されるなど、和やかな雰囲気にもなった。2日目は、一般財団法人日本土壌協会会長 松本聰先生より演題「これからの土壌の活かし方—水田・畑作のこれまでの土壌変化—」としてご講演を頂いた。土壌に対する多方面からの考察と、施肥技術や土壌診断、トモエ化成のメカニズムまでの
(次ページ上段へ続く)



水田活用の直接支払交付金の見直し

～都道府県単位の取組を強化、飼料用米は作況調整を導入

水田活用の直接支払交付金の交付方法に変更があったのでご紹介したい。昨年度と変わった点は産地交付金の部分だ。主食用米の場合、主食用米作付面積が生産数量目標の面積換算値を下回る事となった都道府県に対して10a当たり5千円の交付がなされる。数量目標が達成出来ない都道府県については満額交付されないといった「飴とムチ」の方式で各都道府県毎での取組がカギとなる。また、配分方法についても変更がなされた。平成30年産の販売自由化を見据えて水田フル活用と需要に応じ
(次ページ中段へ続く)

(前ページ上段より続く)

幅広い話をお聞きした。続いて北肥協全体の活動である「ときわ拡販活動（ときわ拡販委員会）」について発表があり、ときわ化研株式会社相談役栗原様、北肥協拡販推進部長（㈱愛農代表取締役社長）照井様よりご挨拶があった。

今回も盛り沢山となった研修会であったが、様々な観点から拡販へ向けてのメンバー各社の意気込みが伝わってくる研修会であったのではないかとと思われる。紙面をお借りしまして、本会の準備にご協力を頂きましたメンバー各社の皆様、そして準備委員の皆様にご挨拶申し上げます。（札幌支店）

(前ページ下段より続く)

た生産の取組を定着させるため運用方法に見直しをなされ交付金交付時期は4月上旬と10月上旬の計2回に分配される。また、2回目の配分については各県における戦略作物の生産向上や産地づくりに向けた取組を評価された額が分配される。1回目の交付は8割出るのが2回目の交付金は上記評価によって各県の取組によって差が生まれるようだ。その他、飼料用米等の数量払いについても作況指数の調整が入る。昨年までは作況に関わらず地域の平均単収をベースとして8万円を設定し、上下限150kgの範囲においてキロあたり167円刻みで交付金額を5.5～10.5万円の範囲内で幅を設定、捨て作り防止と生産意欲向上を目的としている。今年はこのように作況調整を導入し作況ベースによる変動方式を採用。これにより天候不順において作況指数が低下した場合、今までの平均反収に作況指数を乗じた値が平均反収となるため、天候不順にも関わらず収量を上げた生産者の努力が報われる方式となった。昨年は生産数量目標値が全国ベースで達成されたが、各都道府県においては未達の県もありこれから田植えシーズンがピークを迎えるわけだが、都道府県毎の取組に注目される。

飼料用米等の数量払いについて（作況調整の導入）

○ 各地域における標準単収値を当年秋の作況により調整し、交付単価を決定する仕組みとする。

【生産者の単収550kg/10a、当該地域の標準単収値 530kg/10aの場合】

【現 行】	【28年度以降】
<p>交付単価 = 8万円/10a + 2.5万円/150kg × (当該生産者の単収 - 標準単収値)</p>	<p><作況調整の交付単価計算の考え方> 当年における当該地域の作況指数が●●であった場合、標準単収値に●●/100を乗じたものを調整後の標準単収値とする。</p>
<p>交付単価 83,333円/10a (作況によらず同額)</p> <p>(8万円/10a + 2.5万円/150kg × (550 - 530) = 83,333円/10a)</p>	<p>作況指数97の場合、交付単価 85,983円/10a</p> <p>調整後の標準単収値 514.1kg/10a (530 × 0.97) 8万円/10a + 2.5万円/150kg × (550 - 514.1) = 85,983円/10a</p>
	<p>作況指数100の場合、交付単価 83,333円/10a</p> <p>調整後の標準単収値 530kg/10a (530 × 1.00) 8万円/10a + 2.5万円/150kg × (550 - 530) = 83,333円/10a</p>
	<p>作況指数103の場合、交付単価 80,683円/10a</p> <p>調整後の標準単収値 545.9kg/10a (530 × 1.03) 8万円/10a + 2.5万円/150kg × (550 - 545.9) = 80,683円/10a</p>

農林水産省政策統括官付穀物課 資料より

★クリオネ通信～道産食材で美味しいスイーツ★

毎年恒例となっております「札幌スイーツコンペティション」ですが、2016年のグランプリが発表されましたので皆様にご紹介します。今回のテーマは「道産食材」です。グランプリは札幌伝統のタマネギ品種「札幌黄」を練りこんだクッキーを台に、北海道産チーズのムースフロマージュをのせ、上部にもタマネギクッキーを乗せ、玉ねぎの皮をイメージしたチョコレートをトッピングした“ガトー たまねぎ SAPPORO”です。筆者は既に体験済みですが、これまでケーキで体験したことのない味覚に驚きを隠せませんでした。来年の3月まで販売されていますので、ご来道の際はぜひ御賞味下さい。（札幌支店）



スイーツ王国さっぽろ公式サイトより

4/14に発生致しました熊本大地震の被害に遭われました方々には、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp